



伊藤 史織

任期
2018年4月～
2021年3月



ろくろ細工の漆塗り

私が南木曾町に興味を持ったきっかけは、原木から仕上げまでを一貫して行う南木曾ろくろ細工でした。地域おこし協力隊として、地域をおこす手伝いのできればと思っていました。思い返すと地域の皆さんに助けていただいたことばかりが思い出されます。

私は、協力隊になる前に南木曾町を二度訪れています。一度目は木地師の里へ。私が南木曾町に引越す前の年の初夏頃でした。滞在時間は半日程度で

観光も寄り道もしませんでした。当時は美しい景色もろくろに見ずに帰ったように思います。再び訪れたのは半年後、協力隊の面接のために南木曾町を訪れました。このときは電車を待っている間に妻籠宿を訪れることができました。一通り見て回り、帰ろうとしたところバスを逃してしまっていたことに気づきました。次のバスまでは時間がありすぎたため、歩いて駅まで行こうと私は思いましたが、私に声をかけてくださ



の方がいたのです。その方のご厚意で私は駅まで送っていただけることになりました。駅まで用事があるからと仰っていました。今思うとバス停の付近で困っていた私を見かねて助けてくださったように思います。

そのため、協力隊採用の連絡をいただいた時は、4月から南木曾町で暮らすことができるのだと、とても嬉しかったです。地域おこしのお仕事をしながら木工を学ぶために、南木曾町にお世話になろうと決めてきました。南木曾町で働くことが、あの時のお礼にもなると思いました。南木曾町で暮らしてみると、自分が想像していたよりも温かく住民の皆さんが迎え入れてくださったことを覚えています。南木曾町の厳しい自然の中で暮らしてこられたのは、困ったときに手を差し伸べてくださった方や見守ってくださった方のおかげです。

一年目は、仕事を覚えることに必死で

した。その合間にも、地域のお祭りや行事にも参加させていただく機会に恵まれ、自然とともに生活する南木曾町の人々の暮らしを間近で体感することができました。

二年目は少しずつできることが増えてきたように思います。なぎのこマルシェに出店できたことは、地域の皆さんに普段学んでいることを実際に見ていただく良い機会であったように感じます。

三年目は、ひたすら今できることをさらに精進させていくことを意識しました。新型コロナウイルスの影響もあり、思うような活動ができませんでしたが、その分じっくりと腰を据えて研修に励むことができました。

任期終了後も、南木曾町で南木曾ろくろ細工について学んでいきます。まだまだ未熟者ですが、協力隊としてではなく一人の南木曾町民として、少しでも「地域をおこす」協力ができればと思います。



子育て世代のお母さん方が主催の手作りイベント
なぎのこマルシェへの出展